

Red Hat Linux  
&  
Fedora Core  
Tips

らのねっと  
<http://www.ranonet.com>

作成日 : 2004/11/21  
最終更新日 : 2005/11/19  
作成者 : らの

## 目次

---

1. USB フロッピードライブを使用する [FC2]
2. Windows XP(2000)とのデュアルブート環境の構築する [FC2, FC3]
3. ftp で root ユーザのログインを許可する [RHL9]
4. USB フロッピードライブを使用する [FC3]
5. 標準の文字コード変更 [FC4]

## USB フロッピードライブを使用する [FC2]

Fedora Core 2でUSB接続のフロッピードライブを使用する方法について説明します。Red Hat Linux 9では接続するだけで自動的にマウントされて使用できたのですが、Fedora Core 2では手動でマウントを行う必要があるようです。ここではWindows (FAT) フォーマットのフロッピーディスクを使用することとします。

1. USB フロッピードライブをパソコンに接続する。
2. ドライブにWindows (FAT) フォーマットのフロッピーディスクを挿入する。
3. フロッピーディスク用のマウントポイントを作成する。

```
[root@svr1 /]# mkdir /mnt/floppy
```

4. フロッピーディスクをマウントする。

```
[root@svr1 /]# mount -t vfat /dev/sda /mnt/floppy
```

使用後にフロッピーディスクを取り出す前にはマウント解除が必要です。マウント状態からフロッピードライブを外す場合も同様です。

1. カレントディレクトリをフロッピーディスクのマウントポイント以外に移す。

```
[root@svr1 /]# cd /
```

2. フロッピーディスクをマウント解除する。

```
[root@svr1 /]# umount /mnt/floppy
```

3. フロッピーディスクを取り出す。
4. USB フロッピードライブを取り外す。

## Windows XP (2000) とのデュアルブート環境の構築する [FC2, FC3]

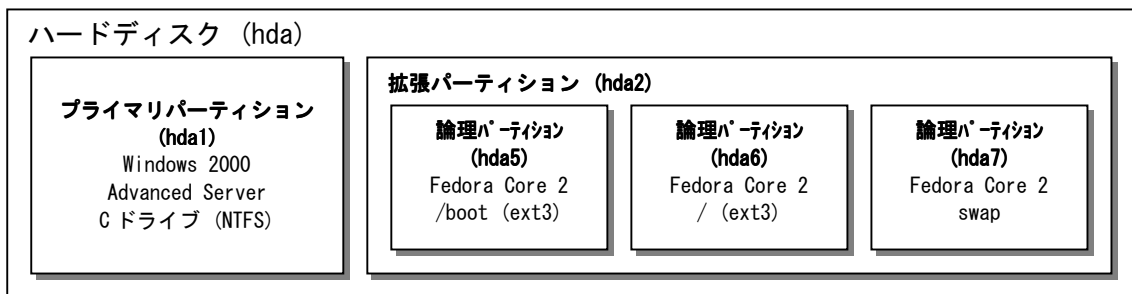
1台のパソコンで Windows と Linux のデュアルブート環境を構築する場合、マスターブートレコーダとして Windows 系標準の NT ロードと Linux 系標準の GRUB (もしくは LILO) を選択できます。どちらを選択するかは使用する人の好みによると思いますが、Windows ではインストール時にマスターブートレコードを強制的に上書きしてしまうことから、Windows 標準の NT ロードをそのまま使用する場合があります。

Red Hat Linux ではインストール時にブートディスクを作成することができたため、NT ロードを使用したデュアルブート環境の構築が簡単でした。しかし、Fedora Core 3 ではインストール時のブートディスクの作成が除外されてしまいました。もちろんブートロードとして Linux 標準の GRUB や LILO を使用する場合は特に問題はありません。ここではマスターブートレコーダとしてどうしても NT ロードを使用したい場合の手順を記載します。

### <使用する OS>

- (1) Windows 2000 Advanced Server (他の Windows 2000、Windows XP でも同様です)
- (2) Fedora Core 3 (Fedora Core 2 の場合も同様です)

### <パーティション構成>



以降の手順では Linux のブートロードとして GRUB を使用しますが、LILO でも手順は同じです。

1. 通常通り C ドライブに Windows 2000 Advanced Server をインストールする。  
※この時点で MBR は NT ロード
2. hda5~hda7 に Fedora Core 3 をインストールする。GRUB はマスターブートレコードにインストールすること。他の場所にインストールすると Linux が起動しなくなります。  
※この時点で MBR は GRUB
3. パソコンの電源を投入、Fedora Core 3 を起動し、root ユーザでログインする。

- Linux パーティションの先頭に GRUB をインストールする。

```
[root@svr1 /]# /sbin/grub-install /dev/hda5
Installation finished. No error reported.
This is the contents of the device map /boot/grub/device.map.
Check if this is correct or not. If any of the lines is incorrect,
fix it and re-run the script `grub-install`.

# this device map was generated by anaconda
(fd0)      /dev/fd0
(hd0)      /dev/hda
```

- Linux パーティションのブートセクタををファイルへ出力する。

```
[root@svr1 /]# dd if=/dev/hda5 of=/bootsect.pbr bs=512 count=1
..... 1+0
..... 1+0
```

- 5 の手順で作成した bootsect.pbr ファイルをフロッピーディスクにコピーする。
- Fedora Core 3 をシャットダウンする。
- パソコンの電源を投入、Windows 2000 Advanced Server の CD-ROM から起動する。
- 「Windows 2000 Server セットアップ」画面が表示されたら、R キーを押す。
- キーボードを選択後、「Windows 2000 修復オプション」画面が表示されたら C キーを押す。
- 「回復コンソール」が起動したら Windows 2000 インストールにログオンする。  
ここでは表示される Windows のシステムフォルダの数字を入力し、[リターン]キーを押す。

Microsoft Windows 2000(R) 回復コンソール。

回復コンソールはシステムの修復と回復機能を提供します。

EXIT と入力すると、回復コンソールを終了し、コンピュータを再起動します。

1: C:\WINNT

どの Windows 2000 インストールにログオンしますか? (取り消すには Enter キーを押してください) 1 ←入力しリターンキーを押す

- Administrator のパスワードを入力し、[リターン]キーを押す。

```
Administrator のパスワードを入力してください: ****
```

- コマンドプロンプトが表示されたら“fixmbr”コマンドを実行する。

```
C:\WINNT>fixmbr
```

- 警告メッセージが表示されるので、内容を確認し、“Y”を入力後[リターン]キーを押す。

```
** 警告 **
```

このコンピュータに、非標準または無効なマスタ ブート レコードがある可能性があります。

続行すると、FIXMBR パーティション テーブルが壊れる可能性があります。

現在のハード ディスクのすべてのパーティションにアクセスできなくなる可能性があります。

ドライブのアクセスで問題ないときは、続行しないでください。

新しい MBR を書き込みますか? Y ←入力しリターンキーを押す

```
¥Device¥Harddisk0¥Partition0
```

物理ドライブ上にマスタ ブート レコードを書き込んでいます。

新しいブート レコードは正しく書き込まれました。

- コマンドプロンプトから“exit”と入力し、OS を再起動する。

```
C:\WINNT>exit
```

- Windows 2000 Advanced Server が起動したら、Administrator ユーザでログオンする。

- 6 の手順でフロッピーディスクにコピーした bootsect.pbr ファイルを C:\¥ドライブ直下にコピーする。

18. メモ帳を使用して“C:\boot.ini”ファイルを開き、以下のように編集する。

```
[boot loader]
timeout=30
default=multi(0)disk(0)rdisk(0)partition(1)\WINNT
[operating systems]
multi(0)disk(0)rdisk(0)partition(1)\WINNT="Microsoft Windows 2000 Advanced Server"
/fastdetect
C:\bootsect.pbr="Fedora Core 3" ←この行を追加
```

19. OS を再起動すると起動時に OS を選択できるようになる。

## ftp で root ユーザのログインを許可する [RHL9]

セキュリティの面からデフォルトでは root ユーザに ftp のログインは許可されていません。また、ftp では su が使用できないため、root でのファイル転送が必要な場合は以下のように設定変更することで root ユーザでログインできます。

1. エディタ (vi 等) を使用して、"/etc/vsftpd.ftpusers" ファイルを以下のように編集する。

```
# Users that are not allowed to login via ftp
#root ←コメントアウトする
bin
daemon
adm
(以下省略)
```

2. エディタ (vi 等) を使用して、"/etc/vsftpd.user\_list" ファイルを以下のように編集する。

```
# vsftpd userlist
# If userlist_deny=NO, only allow users in this file
# If userlist_deny=YES (default), never allow users in this file, and
# do not even prompt for a password.
# Note that the default vsftpd pam config also checks /etc/vsftpd.ftpusers
# for users that are denied.
#root ←コメントアウトする
bin
daemon
adm
(以下省略)
```

3. デーモンを再起動する。

```
[root@svr1 /]# /etc/rc.d/init.d/xinetd△restart
```



## USB フロッピードライブを使用する [FC3]

Fedora Core 3でUSB接続のフロッピードライブを使用する方法について説明します。Red Hat Linux 9では接続するだけで自動的にマウントされて使用できたのですが、Fedora Core 3では手動でマウントを行う必要があるようです。ここではWindows (FAT) フォーマットのフロッピーディスクを使用することとします。なお、FC3ではデフォルトのマウントポイントが変更になっています。

1. USB フロッピードライブをパソコンに接続する。
2. ドライブにWindows (FAT) フォーマットのフロッピーディスクを挿入する。
3. フロッピーディスクをマウントする。

```
[root@svr1 /]# mount△/media/floppy
```

使用後にフロッピーディスクを取り出す前にはマウント解除が必要です。マウント状態からフロッピードライブを外す場合も同様です。

1. カレントディレクトリをフロッピーディスクのマウントポイント以外に移す。

```
[root@svr1 /]# cd△/
```

2. フロッピーディスクをマウント解除する。

```
[root@svr1 /]# umount△/mnt/floppy
```

3. フロッピーディスクを取り出す。
4. USB フロッピードライブを取り外す。

## 標準の文字コードを変更する [FC4]

Fedora Core 4 では標準の文字コードとして UTF-8 が採用されています。コンソールのみで作業する場合にはあまり困ることはないのですが、他のパソコン（クライアント）からデータ転送を行う場合に問題となることがあります。例えば Windows 版ファイルの転送ソフトの FFFTP などは UTF-8 に対応していないので、ファイルを転送すると文字が化けてしまいます。そこで文字コードを UTF-8 から Red Hat Linux 9 などで使用されていた EUC へ変更する方法を紹介します。また、ついでにフォントも Red Hat Linux 9 の時と同じものに変更します。

1. エディタ (vi) を使用して、`"/etc/sysconfig/i18n"` ファイルを以下のように編集する。

```
LANG="ja_JP.UTF-8"
    ↓ 修正
LANG="ja_JP.eucJP"

-----

SYSFONT="latarcyrheb-sun16"
    ↓ 修正
SYSFONT="lat0-sun16"

-----

SUPPORTED="ja_JP.UTF-8:ja_JP:ja"
    ↓ 修正
SUPPORTED="ja_JP.eucJP:ja_JP:ja"
```